

食品健康影響評価の方向性（リスク判定の検討事項）（案）

➤ 厚生労働省からの諮問事項

○ SRMの範囲

現行の「全月齢の扁桃及び回腸遠位部並びに30か月齢超の頭部（舌、頬肉、皮及び扁桃を除く。）、脊髄及び脊柱」から「30か月齢超の頭部（舌、頬肉、皮及び扁桃を除く。）及び脊髄」に**変更した場合のリスクを比較**。

➤ ハザードの特定

非定型BSE感染牛に由来する30か月齢超の脊柱（DRG）に蓄積するPrP^{Sc}

➤ ハザードに係る知見の概要（ハザードの特性評価）

- 非定型BSE (L-) の**発生頻度**（0.07頭/年 2歳齢以上の牛100万頭当たり）
- 非定型BSEにおける**DRGの単位組織重量当たりの感染価**（中枢神経組織の約1/10~1/10⁵）
- 疫学的に**非定型BSEと人のプリオン病との関連を示唆する報告はこれまでに確認されていない**
- 実験動物を用いた非定型BSEの人への感染性に係る知見
 - **H-BSE**はヒト化Tgマウス及び非ヒト霊長類への**感染は認められない**
 - **L-BSE**はヒト化Tgマウス及び非ヒト霊長類への感染が**認められたものと認められなかったものがある**（マウスではPrPの発現量の関与が考えられる。）

接種経路	対象動物	H-BSE	L-BSE
脳内	ヒト化Tgマウス（PrP自然レベル）	—	+/-
	ヒト化Tgマウス（PrP過発現）	—	+/-
	ネズミキツネザル	NA	+
	カニクイザル	—	+
経口	ヒト化Tgマウス（PrP自然レベル）	—	—
	ネズミキツネザル	NA	+/-
	カニクイザル	—	—*

* PMCA法で一部組織においてPrPresの増幅が確認された事例あり

- ウシと人との種間バリア（**障壁あり**）
- 人におけるプリオンの用量反応（**閾値は不明**）

➤ ばく露状況

- 脊柱の利用等、摂取形態/頻度及び摂取量に関するデータは限定的
- ハザードのばく露量：具体的なばく露量を推定することは困難
- ※最悪のシナリオを仮定した場合は感染牛1頭に由来する**DRG全量**
- 非定型BSEの発生状況に加えて臨床症状を呈した牛は**フードチェーンから排除**

* その他（留意すべき事項） *

- ・ 食品を介した人の健康に及ぼすリスクを検討するにあたっては**経口投与実験**による知見がより**現状を反映**
- ・ 高感度検出法に係る知見については、その結果を科学的に判断